

## 算数の授業で役立つ小技や小ねた (2021・6月号)

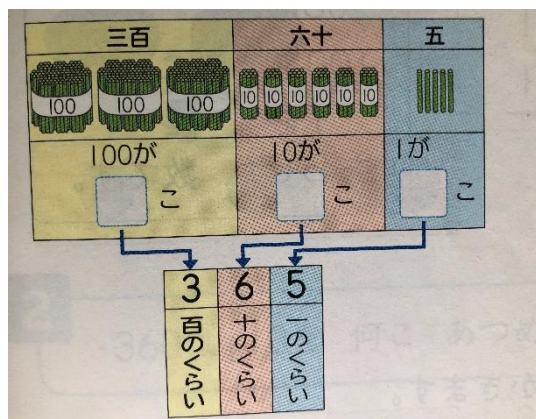
### 1 大きな数について

2年生・3年生・4年生の各学年で「大きな数」の指導が始まります。十進位取り記数法の規則や読み方の指導がメインになります。

#### ・2年生の大きな数がすべての基礎

2年生では100をこえる数という事で1000ちょうどの数までを扱います。1が10集まると10、10が10集まると100、100が10集まると1000になる10進数の仕組みを教えるのですがなぜだか1000以上10000未満の数は扱いません。実は1万までの4ケタの数の読み・表記が位取り記数法のベースになります。ですからちょうど1000で終わらすのではなく何千の数を扱うほうが望ましいのですが、教科書では1000は教えるがそれ以上は扱っていません。(理由は不明)この時点で幾千まで指導しておく方がよい。

教科書にはもう一つ問題があります。それは下の画像のように各位に示された数え棒に

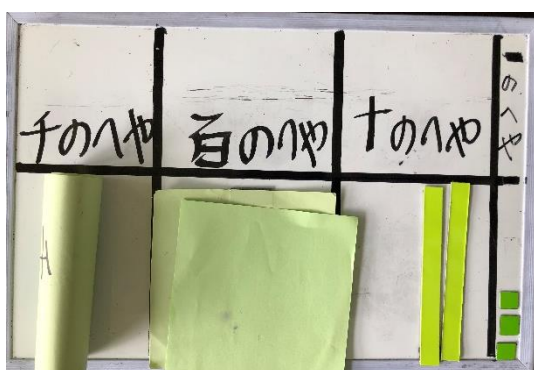


東の数を表すラベルが貼ってあるということです

このやり方は、まずいのです。例えば百の位に100のラベルを貼った束が3つあります。十の位には10のラベルを貼った束が6個あります。これをそのまま書き表すと<300605>となるのです。(啓林館はこのやり方を変えようとしませんが、躓く子はここで躓きます。)できるなら、次に示すような教具を作って教

えてみてください。

#### ・位取り指導板



これは位取り指導板といって4ケタの数の読みや書き方を指導する時に使います。ホワイトボード板に4ケタの位枠を作り、そこにマグネットや紙で作ったタイルを置いて数を読ませる道具です。

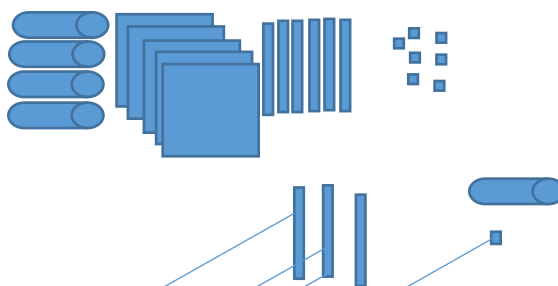
画像では1223を表しています。百や十や一のタイルはそのまま使えるのですが、さすがに千のタイルはそのままでは板上に置けませんので百の紙タイルを10枚つなげます。そしてくるくると巻物のように丸めた物を使います。この大きな数を示すタイルは子どもたちと一緒に作ることをおすすめします。タイルが十集まるごとに大きな位の数を表すタイルに変身する事を実感してほしいからです。(手間取る作業ですが算数はこういった細かなものづくり操作が認識のベースとなります)

・使い方

<位取り板>

千	百	十	一

<数のタイル>



・数字を聞いてタイルを板上に置く段階

<さんびやくよんじゅうご>

千	百	十	一
	■	■	

・タイルの図を見て数を言う・数を書く段階 (空位のある場合)

千	百	十	一
■	■	■	■

→漢数字 ( )

千	百	十	一
■		■	■

→漢数字 ( )

・数字に表した後漢数字に変換 (各位の個数と位の数を合わせて)

(2 4 1 3) (二千二百十三) (十が一つの場合は一十と書かないで十だけで良いこと、また、一千や一百と書かないことなどを説明する)

(2 0 4 1) (千四十一) (0を表す漢数字がないことを知らせ、百が空位の時は千の次に十の数を書く)

・漢数字から数字 (一番間違いやすい)

千	百	十	一
三		五	
3	0	5	0

タイルを置いていたスペースに漢数字を書かせてから変換させると簡単になる。

